

第1回地域振興事業（丘の公園）あり方検討委員会 会議録

1 日 時 平成24年3月12日（月）午前10時から午前11時30分まで

2 場 所 ベルクラシック甲府会議室

3 出席者

（委 員） 桶本委員、小須田委員、坂本委員、清水委員、野村委員、萩原委員、
早川委員、望月委員

（事務局） 中澤公営企業管理者、山縣企業局総務課長、清水総括課長補佐、
経営企画担当（3人）

4 会議に付した議題等

- (1) 地域振興事業(丘の公園)あり方検討委員の委嘱状交付
- (2) 会長選出
- (3) 議事
 - ・ 地域振興事業(丘の公園)の概要について

5 議事の概要

- (1) 地域振興事業(丘の公園)あり方検討委員の委嘱状交付について

- ・ 8名の委員に委嘱状を交付した。

- (2) 会長選出について

- ・ 「地域振興事業（丘の公園）あり方検討委員会設置要綱」第6条第1項の規定により、委員が互選し、坂本委員を会長に選任した。続いて、同条第3項の規定により、坂本会長が早川委員を会長代理に指名した。

- (3) 地域振興事業(丘の公園)の概要について

（会 長）

地域振興事業(丘の公園)の概要について事務局から説明をお願いします。

（事務局）

資料に基づき、事業の概要、経営の状況・課題、今後の検討委員会開催スケジュール等について説明した。

（会 長）

第1回目であるので、自己紹介も兼ねて、感想、意見、質問等ご発言願いたい。

（委 員）

説明を伺って、まず、どこにこの事業の評価の尺度、基準を持っていったらいいのか。基準をはっきりさせて議論するべきである。

そもそもなぜこの事業が存在するのかがまずあって、そして清里、八ヶ岳南麓の地域振興にどうしても寄与できるのかを考えないとならない。企業である以上、赤字を垂れ流すことはできないが、今のこのデフレのとんでもない状況の中で、客を増やす、売上を伸ばすのはウルトラCより難しいこと。デフレがなくなるのを待つしかない状態なので、あまり単年度の収支に目くじらを立てず、長い目で見ることがいいのではないか。

(委員)

丘の公園ができる前、あの辺りに林道を造り、乗馬コースにしたらどうかと考えていたが、ゴルフ場が造られた。当時は日本中でそうだったが、事業決定する世代がゴルフをやりたい世代だった。

観光の面では、あの空間があがたい。そこをどう使うかが問題。

清里では今、中部横断自動車道として高原道路が整備されれば、長野への近道となり、八ヶ岳の観光はこれから変わると言っている。丘の公園のことだけではなく、清里地域全体のことを考えてもらいたい。

丘の公園のスタッフは皆頑張っており、地域の為にも一生懸命やってくれている。清里地域のためにはなくなってもらっては困る施設である。

(委員)

丘の公園の現スタッフは、社長を始め皆努力してよくやっている。この不況の中、そこその成績を上げていると思う。

先ほどの説明の中で、ゴルフ場の客単価が半分くらいになっているとあったが、なぜかという、長野県のゴルフ場が安いからである。安くしないと競争できなくなっている。

レジャー事業の付属施設に運動場があるが、全然利用されていない。例えばグランドゴルフ場などに整備をすれば、そこに売上が出てくるのではないか。

地元にとっては、継続していただかなければ困る事業である。

(委員)

この分野の成功のカギは、「リピーター」である。一度訪れた人にもう一度来たいと思わせる仕掛け作りが必要。

新しいものに投資するという考え方もあるが、今あるものを使ってやっていくのが良いように思う。冬に利用者が激減しているが、構造的な問題を工夫して解決することが必要ではないか。

(委員)

今日、改めて地域振興事業の経営状況の数字を見てびっくりした。これでは、事業自体の継続性をどうするかということから判断しないと行かない。62億円の借入金を年4,000万円ずつ返すと、150年かかることになる。民間は10年が基本である。民間企業としてはとても無理な状況である。抜本的なことを考えないと行かない。62億円の借入金をどうするのか。150年間設備投資なしでやっていくのはあり得ない。そうはいつでも、地域にとっては必要な施設。民間では無理であるが、これは公の施設であるので、そのバランスを考え、どうやっていくか。施設は老朽化しても使用可能であろうが、このまま続けても、借入金の完済は困難というより無理である。

資料の11頁に、前回(平成14年度)の検討委員会の報告書の内容が載っているが、「借入金については、より適切な方法での処理を検討する必要がある」とはどういうことなのか。23年度までに返済する4億円では焼け石に水である。「より適切な方法」で借入金を解決しないと継続は難しいのでは。

(委員)

数字だけを見れば、民間では既に破綻している事業である。こういう状況になってきた背景には、産業構造自体の変化がある。単なる景気の低迷で、景気が上向けば経営も良くなるというものではない。

今まで山梨の主力産業であった、機械、電気、電子関連企業は、製品を作って海外に輸出し、外貨を得てきた。山梨県も昭和57年にクリスタルバレー構想により工業団地を造り、インフ

ラを用意し、ここまで成長発展してきた。それは良かった。しかし、今、それらの企業は、中国やベトナム、インドに生産拠点を移している。では、県内では何を用意したらよいか、雇用の創出についてもどうしたらよいか考えねばならない過渡期に来ている。今までの価値観で丘の公園を見てはいけない。人々が何を求めているか、新しい視点で考えたい。

もう一つは人口の減少がある。リニア新幹線が開通する15年後には、山梨の人口は約1割減るだろう。80万人を切ってくる。そうすると、丘の公園の県内外の利用比率は分からないが、人口面からは利用者の減少が予想される。

一方で、中部横断自動車道が6、7年後に全線開通すると、中部横断自動車道の効果はあるだろうと思う。もう一つ、リニア新幹線が開通し、大交流時代になり、中国や韓国から観光客が入ってくる。リニアの甲府の駅に降りた客はまず、富士山へ行くだろう。甲府盆地側には魅力がない。そこで、八ヶ岳南麓をどう活かすかを考えるべきである。丘の公園という企業体を一つの点として議論するのではなく、八ヶ岳南麓を一つの空間として議論しなければならない。

これからの時代、国民は、更なる経済的豊かさよりも、福祉、環境、観光、健康を求め始めている。これらのことを念頭に置いて、丘の公園を考えていかなければならない。北杜市にメガソーラーの施設ができたり、シミックが県の八ヶ岳薬用植物園の命名権を取得したり、村上農園が明野に植物工場をオープンさせている。そういったものも含めて、八ヶ岳南麓一带を考える視点を持った方がよいのではないか。

(委員)

八ヶ岳という場所は、景観的に非常に素晴らしい場所である。そこを活かしていきたい。しかし、スポーツ施設として経営していくのは難しい。陸上競技場や公園の使用料だけでは絶対に黒字にはならない。「健康」や「スポーツの振興」といったことにはお金で計算できない部分がある。どのような位置付けでやっていくか考えないといけない。今回、ゴルフ場の施設で言えば、「健康」とか「スポーツ振興」がひとつの目安のなるのでは。

(会長)

今、最後の3人の委員が述べられたように、経営としては非常に厳しい状況にあると言える。丘の公園という一つの企業体だけを考えれば、もう結論は出たということになってしまいそうだが、ただ、皆様の意見を伺っていると、地域全体として、八ヶ岳南麓というゾーン全体として考えれば、類い希な観光資源であるし、都会の憩いの場所としての価値がある。リニアや中部横断自動車道という社会資本の整備により、新しい展望が開けてくるという可能性もあるのではないかと。そんなところを一年かけて議論していくことになる。今日は、自己紹介を兼ねたご発言ではあったが、既にいろいろな問題が提起された。

次回は5月下旬の開催ということであるが、実際に現地へ行ってつぶさに見ていただきながら議論を進めたいと思う。

(事務局)

ご意見の中で出てきた「県内、県外の利用者比率」についてであるが、ゴルフ場に関しては、6：4の割合である。国中のゴルフ場については、平均して、その比率が5：5か、やや県内が多いくらい、上野原や富士五湖地域のゴルフ場になると、県外利用者が多く、9割以上が県外利用者というゴルフ場もある。

前回の報告書の骨子に「借入金については、より適切な方法での処理を検討する必要がある」とあるのは具体的にどういう方法なのかとのご質問については、次回検討委員会で回答する。

(委員)

今回は全体の収支はわかったが、部門別の収支の資料はあるか。採算性のある部門を残して、他は切るという判断もあるので。

(事務局)

部門別の収支は、次回資料として提出する。

(委員)

地域振興事業の借入金は、電気事業からしており、対外的には身内の中での貸し借りということだが、条例等で事業会計間で貸し借りを相殺することは可能であるのか。そこが解決の糸口と思うので。あと、現在の指定管理者の決算書を出してもらいたい。

(事務局)

決算の状況は、次回資料として提出する。

(会長)

それでは、本日の議事は以上で終了させていただく。

以 上